

# 福島原発事故による避難と高齢者

## —孤立化する高齢世帯の聞き取り調査を中心として—

事業代表者 国際学部・准教授・清水 奈名子  
構 成 員 国際学部・准教授・阪本 公美子

### 1. 事業の目的・意義

2011年に発生した東日本大震災から4年目を迎えるなか、特に原発事故に伴って避難を続けている世帯の多くは、放射能汚染が続く故郷に帰還することが困難な状況が続いている。2014年5月の時点で栃木県には福島県から約2,900人が避難を続けており、そのなかでも高齢者の孤立化や心身の体調の悪化が懸念されてきた。

こうした高齢避難者を取り巻く問題に対処する方法について避難者の当事者団体である「栃木避難者母の会」関係者と協議した結果、栃木県内での避難生活を続ける高齢者を戸別訪問して聞き取り作業を行うことが、孤立化を防ぐと同時に、問題状況を浮かび上がらせるために必要であるとの結論に達した。また聞き取った内容を『証言集』として記録化し、学生が利用可能な教材とすることで、若年層が高齢避難者問題を知る機会を提供することも目的として、本事業を実施した。

### 2. 事業内容

#### (1) 聞き取り調査

2014年7月から12月にかけて、栃木県内での避難生活を続ける高齢者世帯を「栃木避難者母の会」関係者と共に訪問し、聞き取り調査を行った。

①事故前の福島県での暮らしはどうであったか、②事故によってなぜ、どのように栃木県へと避難したのか、③今はどのような暮らしをしているか、④次世代に伝えたいことの4点を中心に、避難者から直接話を聞く方法を採用した。①の項目を入れているのは、避難することによって失われてしまった生活がどのようなものであったのかを、知るためである。

聞き取り調査の対象者は、避難者の訪問支援活動をしてきた栃木避難者母の会の関係者と相談の上、連絡先が判明しており、事前に調査への同意を得ることが可能な7名を対象とすることにした。

聞き取り調査の場所は、避難者交流会終了後にその会場で行った2名以外は、避難者の自宅で行い、原則として母の会関係者と本事業関係者双方が臨席している。原稿の書き起し作業担当者は聞き取り調査にも必ず参加し、証言を音声レコーダーによって記録した。

また、証言者には事前に説明書を用いて調査の目的、方法、証言集の編集や公開方法について十分に説明し、同意書に署名をくださった方を対象とすることで、倫理面にも配慮した調査の実施に努めた。



写真1. 証言集の確認作業を行う避難者

#### (2) 証言集の編集と教材化

証言の編集に際しては、音声レコーダーから書き起した内容を前述した4つの項目の順番に整理し、発言の趣旨を変更しない範囲で編集を行った。

編集後の原稿は証言者に送付もしくは持参し、2回以上の確認作業を行っている。

2014年8月以降は、栃木避難者母の会関係者と本事業関係者が参加する編集会議を合計13回開催し、書き起した原稿の編集内容を確認する作業を共同で行ってきた。その過程で証言者が公開を希望しない部分は、削除したりぼかした表現を使うなどの編集を加えた。また、避難者支援活動を続けてきた学生団体である FnnnP.Jr. に所属する学生たちにも、書き起こしや資料編の作成に関して協力を仰いだ。

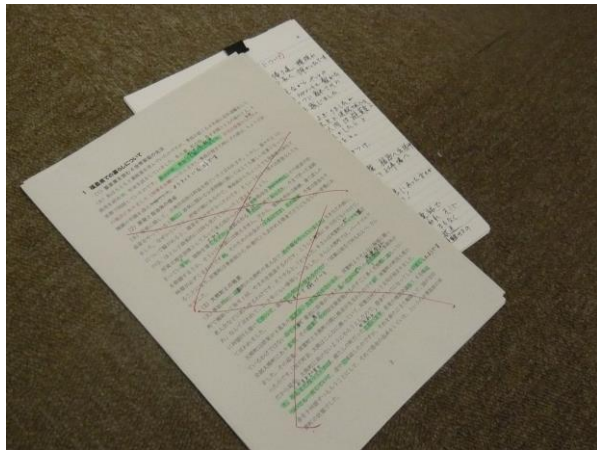


写真 2. 修正箇所を伝える避難者からの手紙と確認用の原稿



写真 3. 調査の同意書に署名する避難者

### 3. 事業の進捗状況

当初の計画では4名の聞き取り調査を予定していたが、最終的には60代から80代の避難者7名から調査への同意を得ることができ、予定より多くの調査を実施することができた。

### 4. 事業の成果

本事業で聞き取り調査を行った7名の高齢者に加えて、高齢世代を支える立場にある30、40代の子育て世代を対象に実施した別プロジェクトの聞き取り調査の結果を合わせて、12名分の避難者の証言を掲載した『原発避難を語る—福島県から栃木県への避難の記録—』を、2015年2月に完成させた。その目次は以下のとおりである。

はじめに . . . . . 清水奈名子

資料 1：福島県の地図「証言者の避難元・出身自治体」

#### I. 証言編

##### 1. 孤立した避難生活と帰還後も続く困難さ

証言者：Aさん（30代・女性）

現居住地：二本松市

##### 2. 家族の時間を大切にする暮らしを求めて

証言者：Bさん（40代・女性）

避難元：田村市都路町

##### 3. あたり前のことが話せる環境を

証言者：Cさん（40代・女性）

避難元：福島市

##### 4. 娘の想いを尊重するための避難

証言者：Dさん（40代・女性）

避難元：郡山市

##### 5. 最悪の事態を先に知りたかった

証言者：Eさん（40代・女性）

避難元：郡山市

##### 6. 「人間の復興」はどこに

証言者：Fさん（60代・女性）

避難元：飯館村

##### 7. 時間が経っても軽くない苦しみ

証言者：Gさん（60代・女性）

避難元：浪江町

8.若い世代には伝わらない想い

証言者：Hさん（80代・女性）

避難元：大熊町

9.見通しの立たないなかで疲れ切っている避難者

証言者：Iさんご夫妻

（夫：60代男性／妻：60代女性）

避難元：福島県双葉町

10.避難者の自立を目指して

証言者：Jさん（60代・男性）

避難元：双葉町

証言者：Kさん（70代・男性）

避難元：南相馬市

II. 資料編

資料2：事故年表 2.

資料3：空間線量マップ

資料4：土壌濃度マップ

資料5：避難指示の経緯

（2011年3月11日～2011年9月30日）

資料6：避難指示の経緯（平成24年以降）

資料7：用語集

解説：原発避難をめぐる諸問題・・・清水奈名子

編集後記

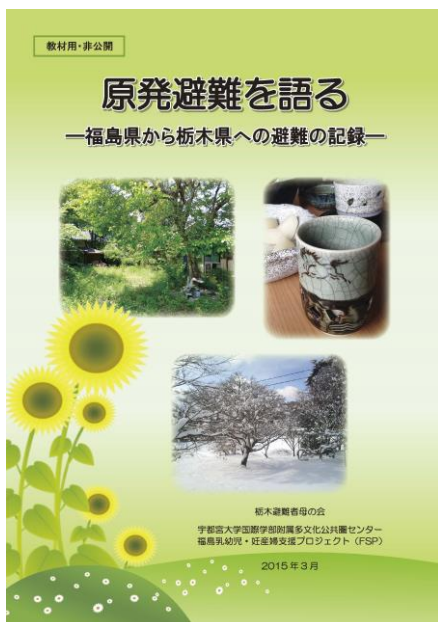


写真4. 証言集の表紙

5. 今後の展望

証言集の完成を受けて、有志の学生たちと読後の感想を話し合う会を2015年2月27日に開催するほか、その内容を3月2日に開催予定の証言集完成報告会において発表する。この報告会では、公開に同意している7名分の証言を含めた「公開用」証言集を紹介し、他の支援団体や行政、メディアの関係者にも公開して本事業の成果を広く社会に発信することを目指している。

また、2015年度の前期に開講される基盤教育科目「3.11と学問の不確かさ」の授業において教材として活用し、学生たちと共に高齢世代をはじめとする避難者がどのような問題を抱えているのか、そしてこれらの問題解決のために何が必要であるのかを考えていく機会を設けることを予定している。



写真5. 避難者主催の下野市における交流会



写真6. 避難者が製作した相馬焼の器